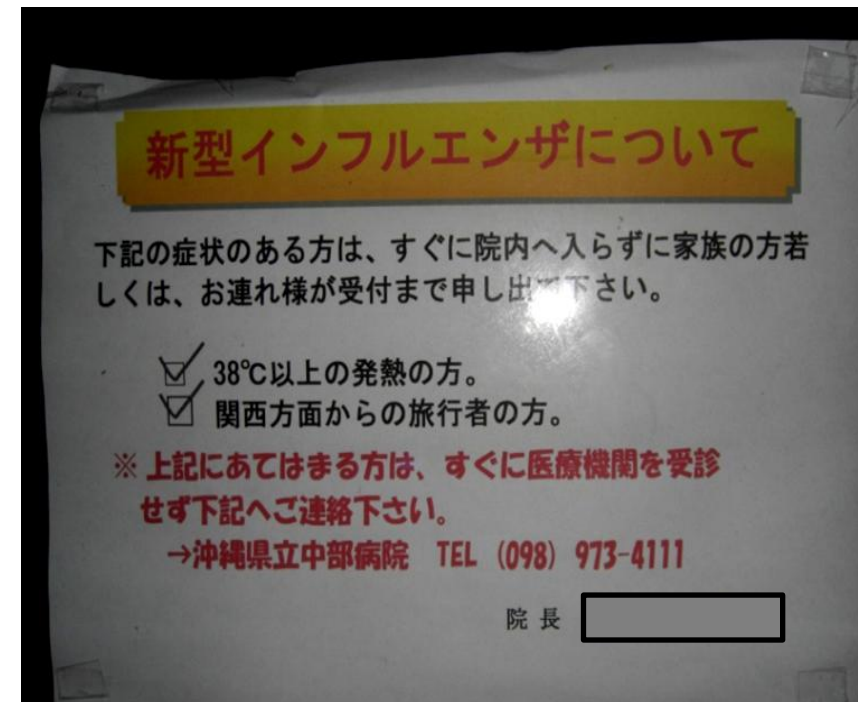


## 沖縄県中部地区における新型対策の「初期」問題点

- 基地関連の「米国帰りの発熱者」が多く来院
- 「厄介な患者は中部病院へ」という信頼と依存
- 医師会、薬剤師会との連携不足
- 救急告示病院間の連携不足
- 小児科医不足
- 住民との接点が少ない

沖縄県中部地区の  
某診療所の張り紙  
2010年5月



# 対策-1: 地域医療機関との連携



中部福祉保健所 2009・05・11

中部福祉保健所が調整の要

- ・ 臨床現場の分かる医師
- ・ 中立の立場で積極的に動く
- ・ 普段からの連携が前提

【目的】救急告示病院、医師会、  
薬剤師会との連携強化

【調整】中部福祉保健所

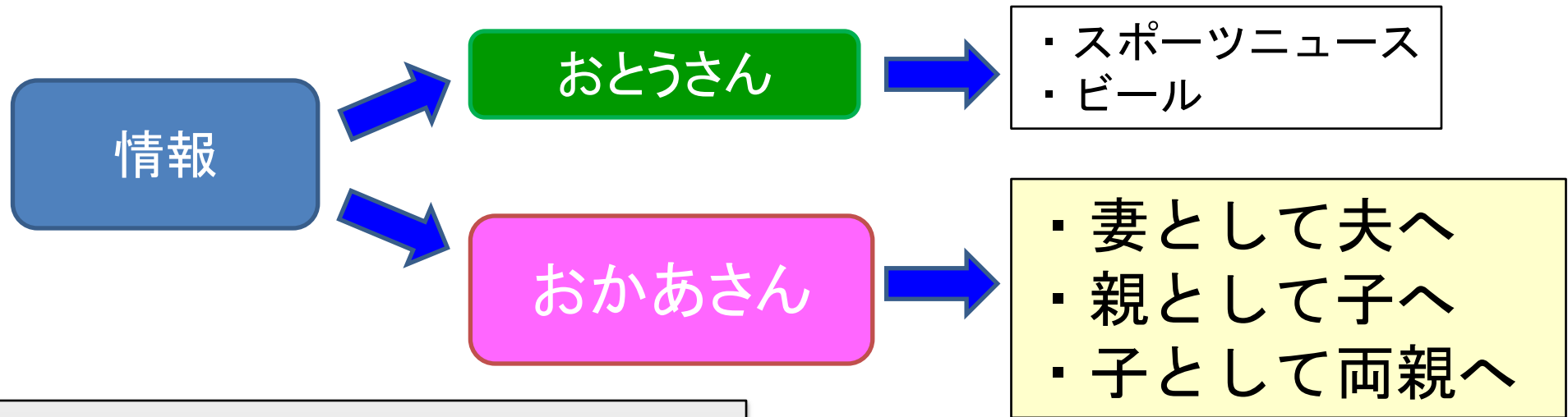
【内容】

- ・ 地域医療を守る目的の共有
- ・ 新型対応の進行状況の確認
- ・ MLの作成
- ・ マニュアル、ポスター、パンフレットなどの共有による標準的な医療の提供
- ・ 地域独自のデータの提供

# 中部地区での体制



# 対策-2: 住民へのリスクコミュニケーション



- ・正しい知識と受診法  
~~念のための受診、検査希望~~  
~~大病院志向、完治証明希望~~
- ・マスクの適正な使用
- ・ワクチンには優先順位がある
- ・季節性ワクチンを接種する



## 対策-2: 住民へのリスクコミュニケーション

- うるま市役所: 2回
- ホテル旅館業組合: 1回
- TV(NHKスペシャル、沖縄金曜クルーズ、四国羅針盤)
- 新聞、ポスター作成(沖縄県医師会)など
- 薬剤情報の裏にインフルエンザ情報を印刷



医療機関(A2判) : 4000枚  
学校関係(A4判) : 38万枚

# まとめ

## 1. 地域における新型インフルエンザ対策

- ①保健所を要として、医師会、薬剤師会などと連携。
- ②住民に適切な受診を促すリスクコミュニケーション。

## 2. 課題

- ①医療者への災害補償の適用(必須)。
- ②PPEは現物支給ではなく、診療報酬として認める。
- ③医療者への予防投与の提供。
- ④データ提出(サーベイランスなど)の要求は最小限に。
- ⑤厚労省からの資料やマニュアルはPDFではなく、汎用ソフトで。

新型インフルエンザ対策にご支援いただきました沖縄県中部福祉保健所の崎山所長、松野先生、宮川先生、沖縄県衛生環境研究所の稲福所長、感染症コンサルタントの高橋央先生に深謝いたします。